

ROTARY CLUB OF NARITA AIRPORT MINAMI DISTRICT 2790

WEEKLY BULLETIN 国際ロータリー第2790地区第6分区
 創立 昭和11年10月6日 承認 昭和41年11月21日

成田空港南R.C. 会長テーマ
 小さな親切 さすな 絆

例会日時 毎週木曜 12:30点鐘
 (最終例会 18:30点鐘)
 例会場 中国ダイニク富士屋

事務局 〒280-1792 千葉県山武郡横芝光町横芝1519-6 URL <http://www.narita-airport-m-re.jp>
 TEL 0479-80-1177 FAX 80-1178 E-mail info@narita-airport-m-re.jp

第2790地区ガバナー 中村 博真 第6分区ガバナー補佐 西之宮 由己

平成22年3月11日発行 NO.1922 第2050例会 会長 鈴木 恭一 幹事 古西 弘和 会報担当 伊藤 元雄

例会報告(平成22年3月11日)

点 鐘	会 長	鈴木恭一
ソ ン グ		「我等の生業」
唱 和		「四つのテスト」
会 長 挨 拶	会 長	鈴木恭一
会 務 報 告	会 長	鈴木恭一
幹 事 報 告	幹 事	古西弘和
プ ロ グ ラ ム		
	各委員会報告	
卓 話	地区会員増強拡大委員長	菅井直秀
	地区職業奉仕委員	富 一美

会長挨拶



皆様 こんにちは。

今月は年度末と確定申告の時期でもあり、皆様方にとっては大変お忙しい時期だと思っておりますが、例会への出席ご苦労様です。又、天候も安定せず大変厳しい寒さが続いておりますので、ご健康には十分気をつけて下さい。

先週は、古谷乳業(株)に職業奉仕のプログラムの一環としての見学会を行い、その後「なんじゃもんじゃリゾート」さんにて、夜間移動例会に変更させていただきます、安藤さんの新入会員歓迎会が盛大に行われ

更に友情と親睦を深めた事と思えます。

来期、織田ガバナーエレクトより、仮委嘱状が届いておりますのでご紹介致します。菅井直秀会員には、地区国際奉仕委員会委員長又、地区危機管理委員会委員に、さらに富一美会員には、職業奉仕研修委員会委員長の役職に委嘱のお願いが届いております。前回理事会にて、承認をいただきました。今後のご活躍をお願い致します。

本日この後、今年度地区の会員増強、拡大委員長の菅井会員と、地区職業奉仕委員の富会員による、『ロータリーの綱領と職業奉仕にまつわる話』について卓話をいただくことになっておりますので、よろしくお願いたします。

お二人の話を聞き、ロータリーの根幹をなす「職業奉仕」の考えを通じ、ロータリアンとして、企業倫理を更に高めていただきたいと思います。

以上で挨拶にかえさせていただきます。

会務報告

①第6回 会長・幹事会開催のご案内

ホストクラブ 成田空港南ロータリークラブ
 日時 平成22年4月27日(金) PM6:00～
 場所 「あづま庵」
 会費 1クラブ 16,000円
 私と古西幹事で出席します。

②地区協議会開催のご案内

日時 平成22年4月29日(木・祝)
 9:00 登録開始
 10:00 点鐘
 場所 アパリゾート東京ベイ幕張

■ 幹事報告

①例会変更のお知らせ

・大多喜R. C.

3/16 (火) 移動例会 (創立記念親睦食事会)
点鐘17:00
横浜中華街廣翔記四川館



②『友』インターネット速報2010年3月9日 (No.419) が届いております。

③週報受領クラブ

・多古R C ・成田コスモポリタンR C
・八日市場R C ・小見川R C

④その他

・次週3月18日は休会です。
・森川会員よりお見舞いのお礼と経過連絡がありました。次年度の会長職は受けて頂けるそうです。

■ 委員会報告

◇ クラブ広報委員会

委員長 内田 裕雄



本日、東京ロータリークラブへのメイクアップ実施に就いて段取り等打合せの為、広報並びに会員増強退会防止合同委員会を開きました。

今回研修と併せて退会防止につながればとの思いで両委員会共催と致しました。

過日の親睦旅行途中、米山記念館を見学致しました。ロータリーの導入、経済界、社会への貢献は目をみはるものがあることを改めて知ることが出来ました。

東京ロータリークラブは正に米山梅吉先生によって設立され、初代会長も務め、ロータリーの偉大な先駆者であります。

先方の都合に合せ、下記の日程等を決定致しましたので会員皆様のご参加をお願い致します。

記

1. 日 時：4月14日 (水)

例会時間 12:30~13:30

1. 場 所：東京ロータリークラブ 帝国ホテル内
東京都千代田区内幸町1-1-1

1. ビジター料金：4000円 (各自負担)

1. 交通手段：参加人数確定次第、改めてご連絡致します。

1. 交 通 費：予算の許す範囲で助成します。

1. 終了後、都内で2~3時間ぐらいの見学場所を見つけておきますので一任下さい。

1. 報告事項：ロータリーの友、ガバナー月信、会報等を市役所、町役場、公民館、病院等に配布しております。

◇ 会員増強退会防止委員会

委員長 土屋 俊夫



本日例会終了後、委員会を行います。

テーマ

ロータリーをよりよく理解するために
”職業奉仕を売上げアップにつなげる方法”

委員会以外の会員参加も自由です。よろしく願い致します。

■ 卓話

ロータリーの綱領と職業奉仕に纏わる話



地区会員増強・拡大委員長

菅井 直秀

日本ロータリーの活性化

- ・ 純粹親睦の必要性
- ・ 業界と会員の相互扶助による事業の発展
- ・ 例会の重要性の再確認
- ・ 日本のロータリーの認知度の低下
- ・ 費用負担の問題

ロータリアンに対して

**大きなメリットを与えることが
クラブを活性化する最前の方策**

卓話

ロータリーの綱領と職業奉仕に纏わる話



地区職業奉仕委員

富 一美

皆さんこんにちは。

先に菅井会員がお話をされましたが、続けて私の方でロータリーの綱領と職業奉仕に纏わる話と題してお話をさせていただきます。

3月7日（日）に地区チーム研修セミナーが行われまして、菅井会員と二人で行って来ました。

菅井会員は、地区の国際奉仕委員長で私は職業奉仕委員会の職業奉仕研修小委員長でございます。其の辺の部分も含めながらお話をさせていただきます。

織田ガバナーエレクトは、職業奉仕委員会をロータリー復興への最枢要（最も大切な）委員会と位置づけられておられます。大変責任の重さを痛感するところでございます。

織田ガバナーエレクトが今回特に強調されておられる一つといたしまして、ロータリーの綱領（英語では Object of Rotary）すなわちロータリーの目的を正しく理解することが重要であるとしております。

この目的を厳密に申しますと、大切な守るべき道、到達できない道と解することもできます。より身近なものにする為にあえて目的とさせていただきます。

そして、地区の活動は「クラブが綱領を推進するのを助けること」が唯一の目的であり、クラブ自治のお手伝い、つまりクラブ自治の為の各クラブ独自の判断基準（物差し）創りのお手伝いをするのが役割であるとしております。

更に又、ロータリー活動の哲学のおよび実際的な基準になっております、四大奉仕ですが、この四大奉仕は並列のものではなく、職業奉仕を中心としてその周りを衛星のように他の3つの奉仕が取り巻いているとイメージすべきであるとしております。

そして、今まで卓話や各セミナーにおきましても、卓話者やリーダーの方々が一方向的にトップダウン（上位下達）で知識、技術、伝達情報などを語って終わってしまっておりましたが、織田年度はトップダウンだけではなくてボトムアップ（下位から上位への意見で意思決定がなされる管理方式）を取り込んでくださいとのことです。

つまり、我々地区委員（全ての委員会）に対しても各クラブの応援団として、各クラブが現在ロータリー或いは各委員会活動に対して疑問に思っていることや様々な悩み事など、その溜まっているストレスを発散していく手助けが出来るようなシステムを構築して欲しいということであります。

今回、織田ガバナーと土屋亮平（PDG）職業奉仕委員長は、職業奉仕への取り組みを強調するための実践手段として、地区職業奉仕委員会を職業奉仕研修小委員会とクラブ研修小委員会の二つの小委員会に分けて配置をされました。

そして、私達地区職業奉仕委員は各々の活動役割の特性を生かして、しっかりと各クラブをバックアップし、応援するよう要請をされております。

以上が、地区研修セミナーの報告でございます。

それでは、本題に入らせていただきます。

標準ロータリークラブ定款第4条のロータリーの綱領（Object of Rotaryすなわちロータリーの目的）は主文と4つの付帯事項に分かれております。

その主文にはロータリーの綱領は「有益な事業の基礎として、奉仕の理想を鼓吹し育成し・・・」と書かれておまして、ここに言う「有益な事業の基礎」という言葉で表しております通り、ロータリーの綱領の主文は職業奉仕について述べていることが分かります。

重ねて申し上げるならば、付帯事項の説明の中で「事業及び専門職種の道徳的水準を高めること。あらゆる有用な職業は尊重されるべきであるという認識を深めること。ロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するためにその業務を品位あらしめること。」と書かれておまして標準ロータリークラブ定款第5条「4大奉仕部門」の奉仕の第二部門である職業奉仕の定義とピッタリ重なる内容で書かれていることから明らかであります。

つまり、ロータリーの目的とするものそして根幹が職業奉仕であることを意味しているわけです。

数多く存在する奉仕クラブの中で、職業奉仕を主体とするクラブは、ロータリークラブ以外には存在せず、言い換えれば、職業奉仕団体であることが、ロータリーの特徴であるはずですが、

ここで補足的に申し上げておきますが、綱領の主文に「奉仕の理想」という言葉が出てきますが、この「奉仕の理想」を語源からして、あえて「奉仕の理念」と読み替えさせていただきます。これには二つの奉仕の理念があるということをお覚えておいてください。さらに、これは決議23-34「綱領に基づく諸活動の方針」に書かれておりまして、この決議23-34は二つの奉仕理念をロータリー哲学とし確定したドキュメント（記録、文書）でございます。

一つは、アーサー・フレデリック・シェルドンの提唱した事業の継続的な繁栄を願う職業奉仕理念（I serve）であります。その理念を「He Profits most who serves best」最も多く奉仕するもの最も多く報いられるというモットーで表しております。いま一つは、フランクリン・コリンズの提唱した社会奉仕、国際奉仕を含む理念（We serve）であり、その理念を「Service above self」超我の奉仕というモットーで表しております。この理念は、他人のことを思いやり、他人の為に尽くすことと定義されております。

この辺のところは、ロータリアンとして大切なところでございますので、理解を深めると同時に心に刻んでいただきたいと思います。

話は変わりますが、ロータリーはここ数年来いろいろの問題を抱えています。その中の一つは、ロータリーは「ボランティア団体」だとする主として欧米ロータリアンと「職業奉仕を基本理念」として「人造り機能」を重視する日本のロータリーとの間に乖離（かいり）が生じています。つまり、意見の対立或いは主張の対立が生じています。

皆さんここで是々非々で考えるならばロータリーの綱領（ロータリーの目的）からして、ボランティア団体などと主張するのは本筋とは大きく逸脱していることに気づくわけでありませう。

本年度RIテーマは『ロータリーの未来はあなたの手の中に』であります。ジョン・ケニーRI会長は『ロータリーの未来は、エバンストンにあるRI本部で決めるのではなく個々のロータリークラブに

よって形成されるのです。強いロータリーを守りぬくために行うことがロータリアンとして私たち一人ひとりのためになります』と語り、テーマを選んだ目標の一つとして“ロータリーをロータリアンに戻したい”ということだと述べています。

ここで、改めて皆さん考えていただきたいのは、ロータリーがロータリーたる所以は何なのかということなんです。

それは言うまでもなく、職業奉仕であることに今一度認識を新たにしていきたいと思います。

じつは、2月3日の第3分区のIMに「ロータリーの源流」の主宰者でございます第2680地区PDG（尼崎西RC）の田中毅先生の「ロータリーの危機」と題するご講演を聞く機会をいただきました。そこで、まぎれもなくロータリーは職業奉仕を目的とした組織であるということを確認いたしました。

これは、後ほど講演のCDを焼き増しして頂戴することになっておりますので、改めましてプロジェクターでプレゼンテーションと合わせてご紹介させていただきます。

さてここで、職業奉仕の大切さをひも解く為に少し話を脱線いたします。

皆さん、現在のロータリーライフの中で、どのようなメリットを感じておられるでしょうか？例会や親睦会が楽しいとか、沢山の友人知人が出来たというメリットがあるかもしれません。また社会奉仕や国際奉仕活動を実践して、ある程度の満足感、達成感といったメリットがあるかもしれません。しかし、本当のメリットとは何でしょうか？ご自分の「事業の発展に結びつく職業奉仕上のメリット」が一番ウエイトを占めるのではないのでしょうか？つまり、ロータリーから職業奉仕の実践方法を学び、ご自分の事業が有益な事業として地域や社会のお役に立ち、そして事業繁栄に結びつくことがロータリアンとしての最大のメリットであり、そこで物心両面の満足が得られるのではないのでしょうか？

今皆さんが最も関心があるのは現在の歴史的景気悪化の動向ではないかと思えます。中には倒産の危機に瀕するまでもないにしましても、大変厳しい状況に直面されておられる方々も沢山いらっしゃるのではないのでしょうか？

以前にもお話をしたことがございますが、皆さんあまりご存知無いかもかもしれませんが、日本のあるプロの経営コンサルタントのお話によりますと、日本で毎年新しく設立される会社は、だいたい8~9万社くらいあるそうです。ところが、3年後にはそのうちの40パーセントくらいは倒産という形で消えて無くなり、さらに5年経つと85パーセントは無くなってしまおうそうです。

又、長期的には、今のスピードで行きますとおよそ30年位の周期で大きな変革の時期があるといわれております。グローバリゼーションと知識の時代を迎えた現在においては、もっと短い周期かもしれません。これは、世襲制をとっておられるところでは、だいたい2代目、或いは3代目にバトンタッチをする時期でもあり、又、時代の大きな潮の流れの変調を来す時期にも重なります。

今まさに、このことにより地球規模での歴史的経済不況の真ただ中なのかも知れません。そしてロータリーの職業奉仕は、この経済不況から起こる職業倫理の低下に対する抑止力として機能をしなければならぬ時と思われまます。

又、振り返ってみますと20世紀から21世紀にかけて物凄いスピードで産業構造は変化をしていません。ちょっと前までは親から受け継いだ職業、すなわち天職観の下にやっていたければ良かった（やっていた）ものが、今ではその枠が大きく崩れて、自分の職業ですら自分の事業を防衛するために職種を変更する必要すら出てくる時代になってまいりました。

この一例としまして、当横芝光町商店街をはじめとする近隣市町村の昔ながらの商店街を見ても分かりますように、車社会の到来により郊外型の大型ショッピングセンターやアウトレットモールなどの数多くの出現により、大きく様変わりを致しております。又、IT化時代の到来によって、コンピューター一台あれば、注文から決済まですべてが出来てしまう時代になりました。情報を収集したり欲しい商品を探したりすることもインターネットを検索することにより、いとも簡単に探せる時代になったわけです。

つまり、ロータリアンにメリットを与える職業奉仕の実践方法を抜本から再構築する必要が出てきたと思います。話を元に戻しますが、本当に今こそ職業奉仕の実践活動の受益者はロータリアン自身であることをみずからが実証しなければなりません。

ここで、改めてロータリアンとして、ロータリー運動の最も重要な目的(Object of Rotary)は職業奉仕にあることを自覚していただきたいと思ひます。職業奉仕の実践こそが、自らの事業を発展させる最大の要素であり、その結果として現れるのが自らの事業や業界全体の職業倫理の高揚であるということです。

続いて、「人造り機能」を重視する日本のロータリーについて考えてみたいと思ひます。標準ロータリークラブ定款第5条「4大奉仕部門」の奉仕の第二部門である職業奉仕の定義の末尾に「会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業をおこなうことが含まれる。」とあります。

つまり、ロータリーは自己研鑽の場であり人造りの場であるということです。

自己を研鑽するとは心を高めるということであり、人格を高めるといふことになりまます。そして、その高めた人格を事業に反映させなさいと言っているのです。以前にもお話ししましたが、人格の高い人とは心のレベルの高い人です。あの経営者は切れ者でやり手だと言われているうちは、三流の経営者だそうです。さらに良いのが、あの経営者は、えも言われぬ良い人柄だといわれる経営者だそうです。例えて言うならばロータリークラブやライオンズクラブ、青年会議所等で活躍している人が大体該当するそうです。又、さらに良いのが、あの経営者は人格者だといわれる経営者だそうです。利己が50パーセント利己が50パーセントの域まで達した人に該当するそうです。

人柄・人格は三つ子の魂百までもと言われまますように、100%は変えられないと言ひます。大きく変わるとすれば、(すさまじい災難にあった時・大病を病んで死に掛けた時・そのような人生において大きな変事が起きた時)このような時オリジナルの人格から第2の人格が生まれることがあるそうです。又、これを先天的な人格から後天的な人格と言うそうです。

そのようなことが無ければ人格とはそう簡単に変えることは出来ません。

それでは、そんなに簡単に換えられない人格をどうしたら変えて行けるのでしょうか？そのプロセスとしては“繰り返し、繰り返しの反省をする。この反省とは「利己（自分だけ良ければ良いんだという心）を抑える心に利他（他人の為に成ろうとする優しい心）が出てくる」ことを言います。利他というものはなかなか出てきませんが、もし心に器というものがあるとすれば、利己を抑えれば抑えた分だけ自動的に利他が出てくる。これを仏教では足るを知ると言います。このように反省を加えている人は人格を変える事が出来るそうです。繰り返し繰り返し反省を加える事によって、人間の人格の大部分を潜在意識として利他の心が占めるようになってくると言う事です。従業員の家族や地域社会のためにもなんと素晴らしい経営者かよと、成功して純益を上げる会社に成長して沢山の従業員を雇用できるということは、どんな善行よりも立派な善行であると言う事です。繰り返し繰り返しの反省が新しい人格をつくり、変わって行って、初めて生まれ変わったように経営が変わり、ひいては世相の流れに流されなくなり、先見性、予見性が付録として付いてくると言う事です。”

これは、私の主観も入った考えも入っておりますので、皆さんは皆さんなりにお考えいただければ良いと思います。

時間の関係もございますので、ここで土屋亮平PDGの言葉を引用させていただいて、まとめさせていただきますが、「職業奉仕の高揚を図ることが、自ずと自己に還元されることを信じ、職業倫理の向上に責任と誇りを持って励むこと」そして、複雑極まりない諸規定を単純、明快に見直し、ロータリーの綱領に掲げられた「有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成する」の基本に立ち返えることに尽きるのではないかと思います。

我々ロータリアンの責務として、先人達が築いてこられたロータリーの精神或は哲理を次の世代に継承させることを肝に銘じ、私のお話を終わらせていただきます。

ニコニコボックス

川島宥君

…妻が日本書芸院展において「会員推薦賞」を受賞したので

越川博光

…三男が行政書士に合格しました

土屋俊夫君

…親睦旅行の写真代ありがとうございました

富一美君

…卓話をさせて頂きありがとうございます

鈴木恭一君・古西弘和君

…菅井会員、富会員卓話をありがとうございます

秋葉講一君

…先日はご利用いただきありがとうございました

押尾正康君

…久しぶりに出席させていただきました

倉石昌治君

…久しぶりの晴天 いい気分です

ありがとうございます

安藤卓造君

…久しぶりに入札に勝つ事ができました

本日計	16,000円
累計	634,520円

出席報告



例会日	会員数	出席	MU	%
3月11日	40	31	9	100.0

☆ 欠席をしたらメイクアップをしましょう ☆



サケ稚魚放流②

3月12日(金)1:30～
光クリーンパーク多目的
広場にて
サケの稚魚を放流する
成田空港南RCメンバー